

1. 指導目標

学習指導要領での「英語コミュニケーションⅢ」の目標は以下のようになっており、下線部が「Ⅱ」の目標にはない（「Ⅲ」で新たに加わる）要素です。

聞くこと

- ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

▶ Heartening Ⅲ では、リスニングのセクションに「Pre-Listening」というコーナーがあり、内容を事前に予測することで話の展開に注意を向けられるようにしました。

読むこと

- ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

▶ Heartening Ⅲ では、リーディングのセクションに「Reading Strategy」という設問があり、ディスコースマーカーなどを確認することで、文章の展開に注意を向けられるようにしました。

話すこと [やり取り]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたことや読んだことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

▶ Heartening Ⅲ ではスピーキングのセクションにおいて、やり取りの流れをビジュアルで示しており、会話を発展させる方法をイメージしやすくしました。また食糧問題など、課題の解決策を論理的に伝え合うためのテーマを用意しました。

話すこと [発表]

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたことや読んだことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

▶ Heartening Ⅲ ではスピーキングのセクションにおいて、発表する際の「話の構成例」を掲載しており、論理的に話すことに意識が向けられるようにしました。

書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

▶ Heartening III では、ライティングのセクションに、OREO などの文章構造や書き方の例を明示しており、論理的に書くことに意識が向けられるようにしました。

2. 指導内容

この教科書は主に以下の4つの内容から構成されています。

① Reading & Writing Strategy

まとまった文章を読んだり書いたりする際に必須の方略について、以下の9つを扱います。

「1 パラグラフの構成」「2 エッセイの構成」「3 表現の言い換え」「4 時間的順序」「5 例示・列挙」
「6 原因・結果」「7 比較・対照」「8 譲歩・打ち消し」「9 事実と意見の区別」

② Lesson (10課)

4技能をそれぞれ高いレベルで身に付けさせるため、どの Lesson も技能ごとに焦点をあてて学べるように、以下の構成としました。

Scene 1: Listening

Scene 2: Reading

Scene 3: Speaking (Interaction/Production)

Scene 4: Writing

題材は、生徒の発達段階を考慮に入れつつ、個人の成長に資するだけでなく、個人と社会の相互補完的な関係について考える機会を設けるものを選定しました。アイデンティティの確立や心身の発達などにまつわる身近な話題を交えつつ、今日のグローバルな社会課題である「持続可能な開発目標 (SDGs)」を重点的に扱います。

1つのテーマに対してリスニングとリーディングの題材を並列的に掲載しており、それらの内容を統合することで複数の視点や多様な意見への気づきが得られるようにしました。またリーディング素材の多くは、海外メディアがウェブサイトなどに公開している記事をベースとしており、現実世界における事例をもとに「多様性」「幸福」「倫理」といった抽象的な概念なども学べるよう配慮しました。

さらに、これら題材の内容と直結する形でスピーキングとライティングのテーマを設定し、誌面には論理的な話し方や書き方の例を豊富に掲載しました。

③ Real Life English (4課)

リスニングとリーディングそれぞれについて、「大学入学共通テスト」前半部分の模試を解くことを通じて、日常生活でよく用いられる英語表現を身に付けられるようにしました（一部、スピーキング・ライティングの要素もあり）。

④ Reading (1課)

豊かな情操と道徳心を培うための物語作品を掲載しました。

3. 年間指導計画

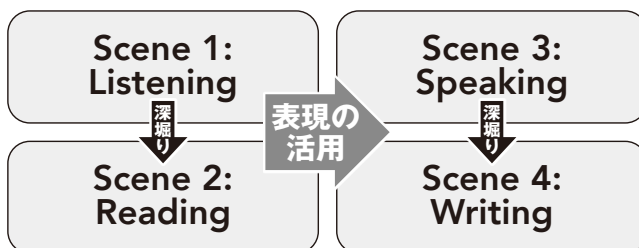
学期	月	課	タイトル	学習のねらい	Listening
1	4	—	Reading & Writing Strategy	文章を論理的に読んだり書いたりする力を養う。	
		L1	What Makes Up Your Identity?	アイデンティティについて扱い、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う。	アイデンティティを形成する要素について聞く。
	5	L2	Predicting Future Technology	未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	100年後の科学技術の予測について聞く。
		—	Real Life English 1	日常的な話題について題材から必要な情報を捉える力を養う。	短い発話を聞き取る。
	6	L3	The Science of Sleep	睡眠について扱い、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことにつながる。	睡眠の重要性について聞く。
		L4	Diversity and Inclusion	多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。	町や企業で多様性を促進している事例について聞く。
		—	Real Life English 2	日常的な話題について題材から必要な情報を捉える力を養う。	短い対話を聞き取る。
	7	L5	Protein Crisis	将来のタンパク源について扱い、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	タンパク源や、それらが将来不足する問題について聞く。
2	9	L6	Different Types of Happiness	幸福論について扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度などを養う。	幸福度を測定するために用いられている要素について聞く。
		—	Real Life English 3	日常的な話題について題材から必要な情報を捉える力を養う。	モノローグや対話（インタビュー）を聞き取る。
	10	L7	Pros and Cons of Utilizing AI	AI について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	AI ロボットが授業をすることへの賛否の意見を聞く。
		L8	Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect	伝統工芸品について扱い、文化を尊重し、それを育んできた環境を大切にする態度を養う。	和紙の特長やそれを作る職人の夢について聞く。
		—	Real Life English 4	日常的な話題について題材から必要な情報を捉える力を養う。	モノローグや対話（インタビュー）を聞き取る。
	11	L9	Getting Your Message Across	人前で話し方について扱い、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う。	人前で話す際の言いよどみについて否定的な意見を聞く。
		12	Medical Ethics During a Pandemic	医療倫理について扱い、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。	感染症がファッションに与えた影響や、パンデミックの予防策について聞く。
	12				
3	1	—	[Reading] Three Questions	豊かな情操と道徳心を培う。	

	Reading	Speaking (Interaction/ Production)	Writing	配当 時間
	論理的に書かれた文章を、ストラテジーを意識して読む。			3
	女優のサヘル・ローズさんが、自らのアイデンティティと向き合った経験について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のアイデンティティについて話し合う。 面接試験で自分のアイデンティティについて説明する。 	自分のアイデンティティについて説明するパラグラフを書く。	6
	発明家のニコラ・テスラが、100年前に予測した科学技術について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 未来の科学技術について話し合う。 未来の科学技術で最も重要なものについて自分の意見を伝える。 	未来の科学技術で最も重要なものについてパラグラフを書く。	6
	ウェブサイトやチャットを読み取る。	聞き取った内容をもとに、イラストを描写する。	読み取った内容をもとに、表の説明を書く。	2
	睡眠と記憶の関係性について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠の重要性について話し合う。 睡眠不足から生じる問題を抱えている友人に、解決策を伝える。 	睡眠不足によって起きる問題とその解決策についてパラグラフを書く。	6
	文化的な多様性を促進するために重要なことについて読む。	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を促進する方法について話し合う。 多様性を促進する方法についてスピーチをする。 	多様性を促進するために最も重要な要素についてパラグラフを書く。	6
	SNS への投稿やレビューサイトを読み取る。	聞き取った内容をもとに、ロールプレイをする。	読み取った内容をもとに、パラグラフを書く。	2
	タンパク質の供給不足の問題と、それを補うための代替タンパク質について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 将来のタンパク源について話し合う。 将来のタンパク源として最適なものについて家庭科の授業で伝える。 	将来のタンパク源として最適なものについてパラグラフを書く。	6
	コスタリカ・デンマーク・シンガポールに住む3人にとっての幸せの価値観について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の幸せにとって何が大切かを話し合う。 幸せについての自分の考えを海外の人に伝える。 	自分の幸せにとって何が大切かについてエッセイを書く。	6
	グラフ入りの記事を読み取る。	聞き取った内容をもとに、スモールトークをする。	読み取った内容をもとに、エッセイを書く。	2
	AI を活用したデータ分析の事例と、AI を活用する際の倫理的な問題について読む。	<ul style="list-style-type: none"> AI の良い点と悪い点について話し合う。 ニュースのリポーターとして、AI の良い点と悪い点について伝える。 	社会生活においてどの程度 AI に頼るべきかについてパラグラフを書く。	6
	金継ぎの特長や金継ぎから学べる人生の教訓について読む。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統工芸品について話し合う。 日本の伝統工芸品の特長を海外の人に説明する。 	日本の伝統工芸品の特長を説明するパラグラフを書く。	6
	時系列で書かれた記事を読み取る。	聞き取った内容をもとに、スモールトークをする。	読み取った内容をもとに、コメント（投稿）を書く。	2
	人前で話す際の言いよどみについて肯定的な意見を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 言いよどみの是非について話し合う。 スピーチをする予定の友人に、言いよどみについてのアドバイスを伝える。 	人前で話す際に言いよどみをすべて取り除くべきかについてエッセイを書く。	6
	医師のエドワード・ジェンナーが天然痘ワクチンを開発した際の医療倫理について読む。	<ul style="list-style-type: none"> ジェンナーの行為の是非を話し合う。 有効性が確立されていない医療を試すことについて、自分の意見を伝える。 	パンデミックの際に、有効性が確立されていない医療を試すべきかについてエッセイを書く。	6
	人生哲学に関する問答を扱った物語を読む。			3

4. Lesson ごとの指導計画

どの課も、右のような構成となっています。
Listening と Reading の題材は相互補完的な関係となっており、それらの内容を統合することで複数の視点や多様な意見への気づきが得られるようにしました。また、学んだ知識や表現をアウトプットさせ定着を促すことで、生徒の理解を一段と深めることもできます。

特定の Scene を飛ばしても教材として成立するように編集してあるため、柔軟な指導計画を立てることもできます。Lesson ごとに扱いを変え、軽重をつけて指導する場合のバリエーションを、例として以下に示します。

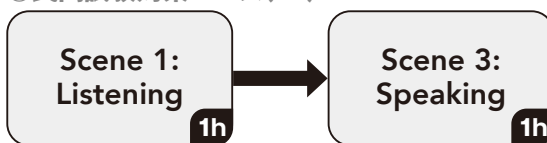


Scene 1・2は教科書で「速聴」「速読」中心に扱い、準拠教材の『Workbook for Intensive Listening and Reading』で「精聴」「精読」中心に扱うことを想定

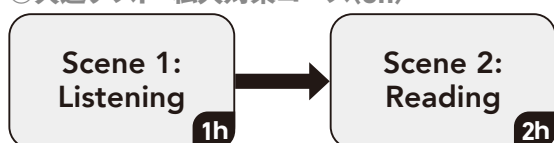
●超時短コース(1h)



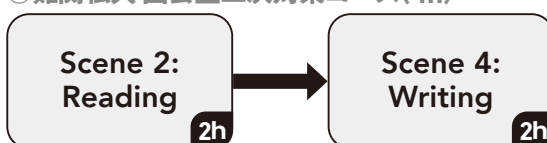
●民間試験対策コース(2h)



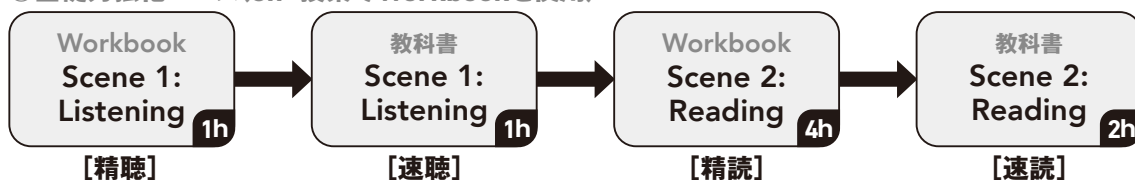
●共通テスト・私大対策コース(3h)



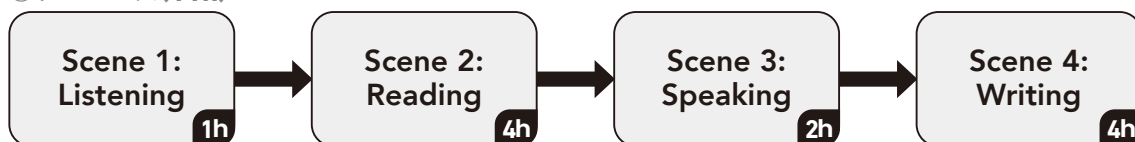
●難関私大・国公立二次対策コース(4h)



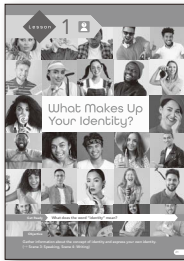
●基礎力強化コース(8h・授業でWorkbookを使用)



●フルコース(11h)

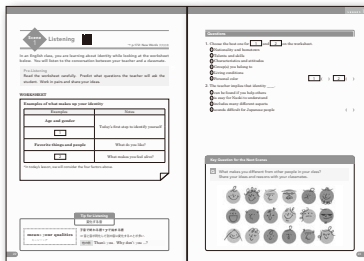


5. Lesson の構成と活動内容



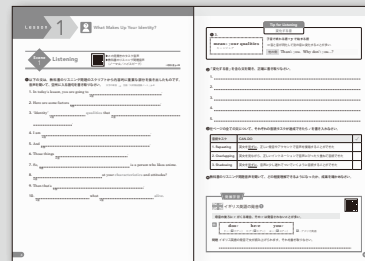
冒頭の「Get Ready」での問いかけは、Lesson 全体を通じて追求したい内容です。そのため同じ趣旨の問いかけが、Scene 1の最後や Scene 3・4にも掲載されています。題材の理解を通じて、生徒の考えや意見が深まっていく全体設計となっています。

Scene 1: Listening



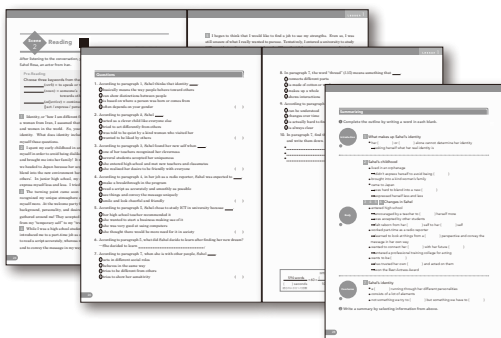
設問の先読みで内容を予測 → リスニング問題演習 → 巻末スクリプトで英文を確認 → 発音解析 → 考えや意見の発信

準拠教材 『Workbook for Intensive Listening and Reading』 (別売)

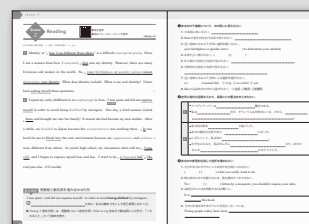


教科書リスニング問題の音声を、内容的に重要な部分にしばって穴埋めディクテーション → 発音解析 → 別英文の全文ディクテーション → 3ステップ音読

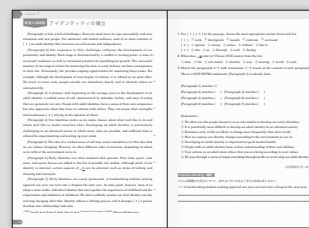
Scene 2: Reading



キーワードの事前インプット → 本文読解 → ディスコスマーカーなどの確認 → 問題演習 → 要点整理 → サマリーライティング

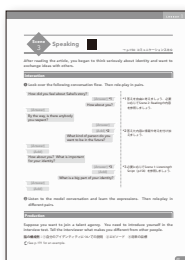


1レッスンを4 (5) つのパートに分けて英文解釈 → 要約 → 表現定着 (和文英訳)



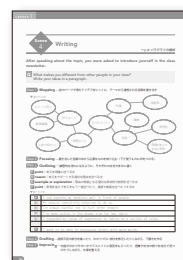
関連入試問題の演習

Scene 3: Speaking



Scene 1・2で学んだ知識や表現を活用してやり取り → モデル会話のリスニング → 再度やり取り → 発表

Scene 4: Writing



Scene 1〜3で学んだ知識や表現を活用して、アイデア出し → 絞り込み → アウトライン作成 → 下書き → パラグラフ (エッセイ) ライティングの完成

6. Lesson の指導法と指導展開

Lesson 1

What Makes Up Your Identity?

Get Ready What does the word "identity" mean?

Objective
Gather information about the concept of identity and express your own identity.
(→ Scene 3: Speaking, Scene 4: Writing)

Get Ready

先生が発問をして生徒の自由な発言を促し、テーマについて短い時間で導入します。そのかわりに「導入動画」(Lesson Supporter などからアクセス可)を投影してもよいでしょう。

Heartening I・II の「Think-Pair-Share」のような、ペアワークで導入を図るためのコーナーとしては、「Pre-Listening」(右記)を用意しており、そちらにより多くの時間を割くことを想定しています。

Objective

Scene 3: Speaking, Scene 4: Writing の活動をゴールに情報収集をする、という趣旨でどの課も目標が設定されています。先生が読み上げるなどして、生徒に目的意識を持たせるとよいでしょう。

Scene 1 Listening

→ p.172: New Words 英語訳

In an English class, you are learning about identity while looking at the worksheet below. You will listen to the conversation between your teacher and a classmate.

Pre-Listening
Read the worksheet carefully. Predict what questions the teacher will ask the student. Work in pairs and share your ideas.

WORKSHEET

Examples of what makes up your identity

Examples	Notes
Age and gender 1	Today's first step to identify yourself
Favorite things and people 2	What do you like? What makes you feel alive?

*In today's lesson, we will consider the four factors above.

Tip for Listening
変化する音

means your qualities
ミーンズ・ジャ

字幕で終わる語+Yで始まる語
⇒ 音と音が同化して別の音に変化することが多い。
他の例 Thank you. Why don't you ...?

Scene 1: Listening

Pre-Listening

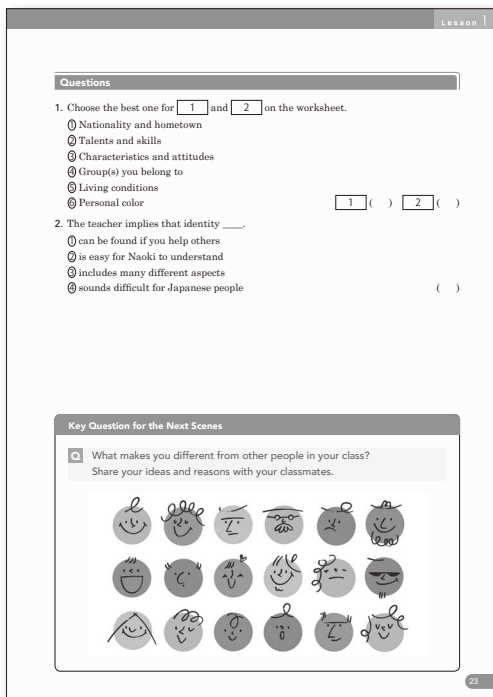
まずは個人で1分程度の時間をとり、状況設定や図表、問題文を手がかりに話の内容を予測させます(共通テストなどでも使えるテクニックです)。その後、ペアワークでお互いの予測とその根拠をシェアさせ、気づきが得られるようにします。生徒のレベルによっては、最初からペアで予測をさせてもよいでしょう。

Tip for Listening

リスニングで出現する音声パターンを確認します(共通テストなどで注意が必要な全10パターンを、各レッスンで1つずつ扱っています)。リスニングの後に先生が解説することを想定しています。

発音記号では伝わりづらい音のつながりなどを示すため、カタカナでの発音表記を取り入れ、生徒が直感的に理解できるよう配慮しました。

音声は『指導用 CD』(別売)に収録しています。



Questions

共通テスト後半の大問と同様、図表を見たりメモを取ったりしながら、長めの会話やモノローグを聞き、答えるタイプの選択問題です。スクリプトがダブル・パッセージの課（L4・7）では、2つの情報を統合して考えさせる問題を含めました。

答え合わせの後には、巻末に掲載のスクリプトを参照させ、聞き取れなかった部分に線を引かせるなど、ふり返りの時間をとりましょう。

スクリプトは、共通テスト後半の大問と同様の長さで、音読にも適した難易度となっています。

Key Question for the Next Scenes

冒頭の「Get Ready」と同じ趣旨の問いかけに対して、ペアワークでやり取りをさせます。Scene 1: Listeningを通じて、生徒の考えや意見が深まったかどうかを確認します。

Scene 2: Reading の導入を兼ねたコーナーになっているため、生徒がこの段階でうまく表現できなくても問題はありません。Scene 3: Speaking, Scene 4: Writingでも同じ趣旨の問いかけが再びされるため、それに向けて考えや意見を積み上げていくよう促します。

指導展開の例

帯活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

★印は準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』（別売）に収録の活動

1コマ目

指導項目	時間
Get Ready	2分
Objective	
Pre-Listening	3分
音声を流して概要把握	5分
★タスク①（重要な文を空所補充形式でディクテーション）	12分
Tip for Listening	8分
★タスク②（上記のTipを含むオリジナル英文のディクテーション）	
★タスク③（重要な文の Repeating → Overlapping → Shadowing）	8分
★タスク④（再度リスニングをさせて、トレーニングの効果を確認）	2分

2コマ目

指導項目	時間
Questions	5分
スクリプト確認・解説	10分
★ハイスピード音声（指導用CDにも収録）のリスニング	2分
評価問題（教科書データ DVD-ROM に収録）の演習	10分
スクリプト確認・解説	8分
Key Question for the Next Scenes	5分

Scene 2 Reading



→ p.172: New Words 単語訳

After listening to the conversation, you were told to read the following article written by Sahel Rosa, an actor from Iran.

Pre-Reading

Choose three keywords from the list below to fill in the blanks.

- _____ (verb) = to speak or write what you are thinking or feeling
 _____ (noun) = someone's character, especially the way he/she behaves towards other people
 _____ (adjective) = continuing for only a limited period of time
 [act / express / personality / temporary / thread / vague]

- 1 Identity, or "how I am different from others," is a difficult concept to grasp. Since I am a woman from Iran, I assumed that was my identity. However, there are many Iranians and women in the world. So, your birthplace or gender alone cannot determine your identity. What does identity include? What is my real identity? I have been asking myself these questions.
- 2 I spent my early childhood in an orphanage in Iran. I was quiet and did not express myself in order to avoid being disliked by strangers. One day, a kind woman visited there and brought me into her family! It meant she had become my new mother. After a while, we headed to Japan because her acquaintance was working there. It was hard for me to blend into the new environment because my appearance and actions were different from others'. In junior high school, my classmates often told me I was odd, and I began to express myself less and less. I tried to be a "normal kid" like everyone else.
- 3 The turning point came soon after I entered high school. One of my teachers recognized my unique atmosphere and way of thinking, then encouraged me to express myself more. At the welcome party for new students, I took the plunge and introduced my background, personality, and desire to get along with everyone. Then several students gathered around me! They accepted me for who I was. At that moment I felt I was reborn from my "temporary self" to my "true self."
- 4 While I was a high school student, another breakthrough occurred. An acquaintance introduced me to a part-time job as a radio reporter. The announcers there were expected to read a script accurately, whereas my role was to look at things from a unique perspective and to convey the message in my way. This experience helped me to develop my own style.

24

Lesson 1

- 5 I began to think that I would like to find a job to use my strengths. Even so, I was still unsure of what I really wanted to pursue. Tentatively, I entered a university to study ICT, considering the growing social needs. When the job-hunting season came, I tried to connect my identity with my future career. I realized that I had a strong desire to express myself through the media and encourage others. So, instead of finding a job in the field of ICT, I entered a professional training college to learn the basics of acting. A few years later, I was able to appear in a TV drama.
- 6 We only live once. I don't want to be just like everyone else. I want to be unique, so I have always trusted my own feelings and acted on them. One of the results of this attitude was winning the Best Actress Award at the Milan International Film Festival.
- 7 I take on many different social roles in relation to the people around me. When I am with other actors, my friends, or my mother, I show a different personality. However, there is a thread running through them all, and that is identity. My identity consists of a lot of elements, such as my natural sensitivity, my instinct to care for others, and my desire to express my emotions without any filters. In fact, it has not been easy to form my identity, and it is still vague. I believe it will become clearer as I continue to challenge myself in various ways. That's because identity is not something you try to find; it's something you have to create. (594 words)



Sahel Rosa

Reading Strategy

1. パラグラフ 1 にある時間的順序を示す語句 3 つを四角で囲みましょう。 (→ p.15)
2. パラグラフ 2 にある比較・対照のディスコースマーカーを四角で囲みましょう。 (→ p.18)
3. パラグラフ 3 にある例示・列挙のディスコースマーカーを四角で囲みましょう。 (→ p.16)

25

Scene 2: Reading

Pre-Reading

本文中の3つのキーワードを、その英英語義をもとに答えさせます。読解の負荷を下げるるとともに、キーワードのニュアンスを正確に捉えさせることがねらいです。

本文

オーセンティックな英文に触れてもらうことを意図して、大半の課の英文は海外メディアから抜粋し、難解すぎる表現に絞って改変したものを掲載しています。また L3・9・10は、実際の入試問題に出題された英文を一部改変したものとなっています。

読解の負荷を下げるためには、教科書本文を読ませる前段階で以下の指導資料（付属の DVD-ROM に収録）を活用するとよいでしょう。

・本文縮約版

本文中の重要な部分を抜粋し、つなぎ合わせて 200 語前後にした英文です。音読の素材にしたり、リテリング（リプロダクション）の例として提示するのも適しています。音声を『指導用 CD』（別売）に収録しています。

・本文パラフレーズ版

文章の量はあまり変えずに、語句や文構造をやさしめに書き換えた英文です。定期テスト出題時の英文素材にして、応用力を試すこともできます。

・Summary

本文の要約文です。Scene 2 最後のコーナー「Summarizing」の解答例を兼ねており、80 語前後のものと、40 語前後のものがあります。

本文を4～5つのパートに分割して精読をさせる場合には、準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』（別売）または、付属の DVD-ROM に収録の「従来型ワークシート」「小テスト問題」を活用してください。

Reading Strategy

教科書巻頭の「Reading & Writing Strategy」で扱っている方略を、実際の英文を読む際に活用できるか試します。次ページの問題（Questions）ともつながりを持たせたものが多く、問題演習の事前に扱うか事後に扱うかは、生徒のレベルに応じて選択してください。

Questions

- According to paragraph 1, Sahel thinks that identity _____.
 ① basically means the way people behave toward others
 ② can show distinctions between people
 ③ is based on where a person was born or comes from
 ④ often depends on your gender ()
- According to paragraph 2, Sahel _____.
 ① acted as a clever child like everyone else
 ② tried to act differently from others
 ③ was told to be quiet by a kind woman who visited her
 ④ wanted to be liked by others ()
- According to paragraph 3, Sahel found her new self when _____.
 ① one of her teachers recognized her cleverness
 ② several students accepted her uniqueness
 ③ she entered high school and met new teachers and classmates
 ④ she realized her desire to be friendly with everyone ()
- According to paragraph 4, in her job as a radio reporter, Sahel was expected to _____.
 ① make a breakthrough in the program
 ② read a script as accurately and smoothly as possible
 ③ see things and convey the message uniquely
 ④ smile and look cheerful and friendly ()
- According to paragraph 5, Sahel chose to study ICT in university because _____.
 ① her high school teacher recommended it
 ② she wanted to start a business making use of it
 ③ she was very good at using computers
 ④ she thought there would be more need for it in society ()
- According to paragraph 5, what did Sahel decide to learn after finding her new dream?
 —She decided to learn _____.
- According to paragraph 7, when she is with other people, Sahel _____.
 ① acts in different social roles
 ② behaves in the same way
 ③ tries to be different from others
 ④ tries to show her sensitivity ()

Questions

どの課も、四択問題を8題と短答式問題を2題用意しました。本文がダブル・パッセージの課(L8・10)や、トリプル・パッセージの課(L6)では、複数のパッセージの情報を統合して考えさせる問題を含めました。

難問・奇問は避け、パラグラフごとに要点や詳細を問う形式を基本としているため、順を追って内容を理解させる際の手助けになります。特に英語が苦手な生徒の場合、1つのパラグラフを読むことに該当する設問に取り組んで答え合わせをすることを繰り返せば、無理なく長文を読み進めていくことができます。

Lesson 1

- In paragraph 7, the word "thread" (L35) means something that _____.
 ① connects different parts
 ② is made of cotton or wool
 ③ makes up a whole
 ④ shows interactions ()
- According to paragraph 7, Sahel doesn't think identity _____.
 ① can be understood
 ② changes over time
 ③ is actually hard to find
 ④ is always clear ()
- In paragraph 7, find three examples of the elements that make up Sahel's identity, and write them down.
 • _____
 • _____
 • _____

594 words 120 wpm 297 seconds
 10 Qs 150 wpm 238 seconds

本文を通し読みさせた直後に「読むのにかかった秒数」を記入させ、その後に10分程度の制限時間を設けて Questions を解かせ、答え合わせ後に「設問正解数」を記入させてください。

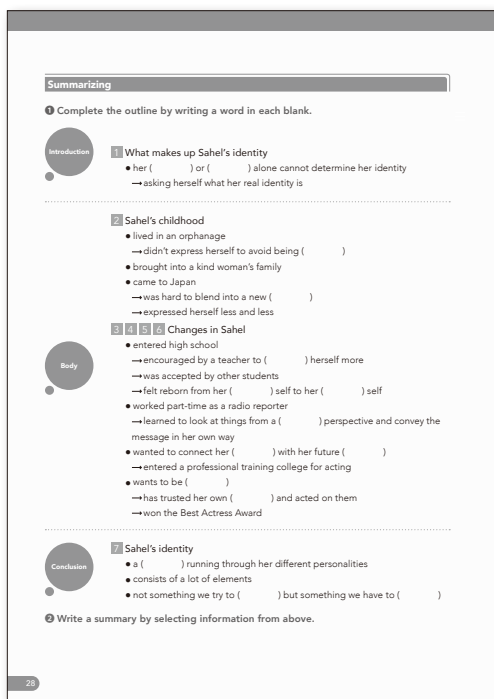
記入欄の右側には、共通テストなどで求められる最低限の読解スピード(120wpm)と理想的な読解スピード(150wpm)を達成するために、本文を何秒で読む必要があるか示しました(設問に全問正解する前提での数値となります)。

各課で測定した wpm を、教科書巻末(折り畳まれた紙の内側)にある Reading Speed Tracker に記録すると、折れ線グラフで成長を可視化できるようになっています。

New Words

Scene 1・2の新語とその英英語義を、まとめて巻末に掲載。CEFR-J に収録の単語(B2レベル以下)を太字にしています。熟語(イディオム)、既習の重要単語、関連語彙を含むリストについては、準拠教材『Workbook 別冊「入試頻出語彙ノート」』(別売)に収録しています。

本教科書では、JACET2000レベルと CEFR-J A1レベルの単語(約2,200語)を中学での既習語、Heartening I・IIの新語計1,119語を高校2年での既習語とみなしました。



Scene 2: Reading

Summarizing

①で本文中のキーワードを抜き出してアウトラインを作らせたあと、②でその情報を絞って要約文を書かせます。要約文の解答例は以下の4パターンを用意しました。

- ・英語80語前後
(アウトラインの情報を約3分の2に絞ったもの)
- ・日本語200～250字前後
(上記の英語を自然な日本語にしたもの)
- ・英語40語前後
(アウトラインの情報を約3分の1に絞ったもの)
- ・日本語100字前後
(上記の英語を自然な日本語にしたもの)

Heartening I・IIの「Retelling Plus」のコーナーよりも紙面に掲載している情報量が多いため、指導の目的によっては付属のDVD-ROMに収録の「リテリング用ワークシート」を利用してください。

指導展開の例 (Scene 2 全体)

帯活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

1コマ目【速読】

指導項目	時間
導入 (Scene 1の「Key Question for the Next Scenes」を再び扱うとよい)	3分
Pre-Reading	1分
本文縮約版 (付属のDVD-ROMに収録) を利用して概要把握	3分
本文読解・Reading Strategy	13分
Questions	10分
答え合わせ・解説	10分

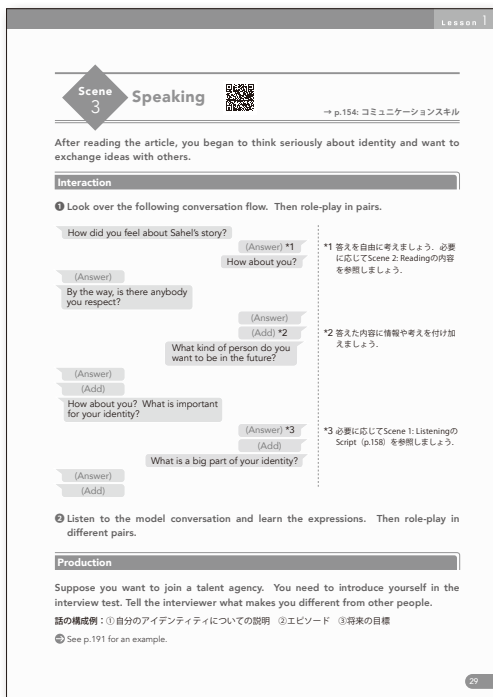
2～5コマ目【精読】

本文を4～5つのパートに分割し、1コマにつき1～2パートを扱う。準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』(別売)の使用を想定

指導項目	時間
語彙の確認	5分
問題演習・解説	25分
小テスト問題 (付属のDVD-ROMに収録) を利用して、授業中の理解度を確認	10分

6コマ目【要約】

指導項目	時間
Q&A集またはTF問題集 (付属のDVD-ROMに収録) を利用して本文のスキミング	10分
Summarizing ①	7分
Summarizing ②	15分
Peer Feedback (書いたものを交換し、工夫していると思う部分に線を引かせる)	3分
全体での共有と解答例の提示	5分



Scene 3: Speaking

Interaction

Scene 1・2で得た知識や表現を利用して会話させ、学習内容の定着を促す「復習」に使えるコーナーです。

紙面の QR コードから聞くことができるモデル会話は、共通テスト（リスニング）後半の大問で展開される会話と同様の長さになっており、論理的なやり取りのパターンに慣れさせることもできます。

『指導用 CD』（別売）には、相づちやリアクションなどのアドリブを交えながら話す「ナチュラルな会話例」も収録しています。教科書巻末「Column 2 コミュニケーションスキル」（p.154）のページと合わせてご利用ください。

Production

民間試験のスピーキング問題で定番となっている、状況設定に則ってまとまった内容を即興で話す形式です。Interaction でやり取りした内容を利用して話を組み立てさせます。

原稿なしで話す際に許容されるレベルの流暢さを示すために、『指導用 CD』（別売）には、日本人ナレーターによる「1分程度の即興スピーチ例」および「2分程度の即興スピーチ例」を収録しています。

指導展開の例

帯活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

1コマの前半【Interaction】

指導項目	時間
会話の準備 (左右どちらの役を担当するかペアで決めた後に、空所となっている吹き出しについて、話す内容を頭の中で考えさせる)	5分
ペアで会話 (生徒は話がかみあっていないことに気づいたり、内容を豊かにする必要性を感じたりする)	2分
モデル会話のリスニング／スクリプト確認 (付属の DVD-ROM に収録のワークシートを利用して、空所となっている吹き出しのディクテーションをさせてもよい)	3分
異なるペアで会話	2分
ナチュラルな会話例（指導用 CD に収録）のリスニング／スクリプト確認	3分
異なるペアで会話／クラスで発表	5分

1コマの後半【Production】

指導項目	時間
状況設定の確認	1分
即興スピーチ例（指導用 CD に収録）のリスニング／スクリプト確認	2分
即興スピーチの準備 (紙面に掲載の「話の構成例」を参考に、話す内容を考えさせる。原稿ではなく、単語やフレーズのメモを作らせる)	5分
ペアで即興スピーチ (単語やフレーズのメモを見ながらでよいので、ペアで交互に発表させます)	2分
Peer Feedback (わかりづらかった部分について質疑応答させ、よりよい表現方法を考えさせます)	5分
異なるペアで即興スピーチ／クラスで発表	5分

Lesson 1

Scene 4 Writing → p.8: パラグラフの構成

After speaking about the topic, you were asked to introduce yourself in the class newsletter.

Q What makes you different from other people in your class?
Write your ideas in a paragraph.

Step 1 Mapping 一つのページで得たアイデアをヒントに、テーマから連想される言葉を書き出す

▼書き出す例

スイング遊び、好きなこと、映画鑑賞、人前で話すこと、得意なこと、アイデアナティ、所属、経験、得意技、性格、得意なもののほかに表現、得意な表現

Step 2 Focusing 書き出した言葉の中から必要なものを絞り込む（下で使うものに印をつける）

Step 3 Outlining 論理的な流れになるように、それぞれの文を大まかに書く

P point: 考えを明確に述べる文
R reason: 考えをサポートする適切な理由を述べる文
E example or explanation: 理由の根拠となる適切な具体例や説明を述べる文
P point: 表現を覚えて考えをもう一度述べたり、前置や修飾を述べたりする文

▼例文

(P)	I can express my emotions well in front of people.
(R)	My natural sensitivity helps me to do so.
(E)	I've always careful not to hurt other people.
(R)	I've been active in the drama club for two years.
(E)	I expanded my range of expression by taking on a variety of roles.
(P)	I want to be able to encourage others with warm words.

Step 4 Drafting 説明不足の部分をつんだり、わかりづらい部分を修正したりしながら、下書きを作る

Step 5 Improving 内容がわかりやすいかクラスメイトに意見をもらったり、図表や文法の誤りを自分で見つけたりしながら、文章を整える

Scene 4: Writing

Q (Question)

Scene 1の「Key Question for the Next Scenes」に掲載の「Q」と同様の内容となっています。また直前のScene 3でやり取りや発表をした内容とも、つながりをもたせています。

100語前後のパラグラフ・ライティング（L6・9・10では、150語前後のエッセイ・ライティング）を想定しています。

Step 1～5

プロセス・ライティングの考え方を取り入れ、5つのStepで無理なく取り組めるようにしました。MappingとOutliningについては経験したことがない生徒も一定数いることを想定し、すべての課において書き方の例を示してあります（書き方の例を見せたくない場合には、付属のDVD-ROMに収録のワークシートを活用してください）。

生徒にはこのページを参照させながら、パソコンやタブレットを用いてアイデア出しや文章の作成をさせるとよいでしょう（デジタルのほうが文章のリバイズをしやすいメリットがあります）。

指導展開の例

帯活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

1コマ目

指導項目	時間
導入（Scene 3の活動を再び扱うとよい）	5分
QとStep 1～5の流れを確認	3分
Step 1: Mapping	10分
Step 2: Focusing	2分
Step 3: Outlining	20分

2コマ目

指導項目	時間
解答作成のプロセス確認 （付属のDVD-ROMに収録の「解答・解説」を配布し、Step 4・5でどのように英文を修正したらよいか例を示す）	10分
Step 4: Drafting	15分
Step 5: Improving	10分
Peer Feedback（書いたものを交換し、工夫していると思う部分に線を引かせる）	5分

※ L6・9・10では、Step 4の段階で1つのパラグラフを複数に拡張し、Step 5の後に口頭発表の「Task」があるため、3コマ目を加えることを推奨します。

7. その他の課の指導法と指導展開

Reading & Writing Strategy

まとまった文章を読んだり書いたりする際に必須の方略を9つ掲載しました。複雑な概念や専門用語を伴うため、説明文や設問文は日本語表記とし、先生が授業中に解説しやすいよう配慮しています。

年度の初めにまとめて扱うことを想定していますが、生徒の習熟度が高い場合には Lesson 1～10の読解に関連させて随時扱う形でもよいでしょう。

「1 パラグラフの構成」

「2 エッセイの構成」

大学などで学ぶアカデミックライティングにおいては、「1つの意見に対して3つの理由を挙げる」「エッセイは5段落で構成する」ことが多いものの、大学入試で課される自由英作文の多くにおいては、下線部で示したようなレベルが求められることはありません。そのため、英検3級～準1級のライティング解答例を参考に、「1つの意見に対して2つの理由を挙げる」「エッセイは4段落で構成する」パターンを Heartening III では扱っています。

また、『大学入試 英作文 ハイパートレーニング 自由英作文編』（桐原書店）の内容を参考に、100語程度のパラグラフに特定の要素を加筆することで、より長い文章（エッセイ）に拡張する方法を解説してあります。

「3 表現の言い換え」

「4 時間的順序」

「5 例示・列挙」

「6 原因・結果」

「7 比較・対照」

「8 譲歩・打ち消し」

「9 事実と意見の区別」

文章を論理的に理解・表現するための方略について、解説の掲載は最小限にとどめ、問題演習を通じて生徒の思考を促し技能の習得につなげることを意図しています。

「8 譲歩・打ち消し」「9 事実と意見の区別」については、アサーティブネス（相手を尊重した自己主張）の考え方に基づいたコミュニケーションに必要な方略について扱いました。

指導展開の例

常活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

1コマ目

指導項目	時間
「1 パラグラフの構成」概説	3分
「1 パラグラフの構成」Exercise	5分
答え合わせ・解説	5分
「2 エッセイの構成」概説	3分
「2 エッセイの構成」Exercise	7分
答え合わせ・解説	7分
まとめ (既習の英文素材などを利用して、文章構成を分析させるとよい)	10分

2コマ目

指導項目	時間
「3 表現の言い換え」「4 時間的順序」「5 例示・列挙」Exercise	20分
答え合わせ・解説	10分
まとめ (既習の物語文などを利用して、「表現の言い換え」や「例示・列挙」の部分を見つけさせるとよい)	10分

3コマ目

指導項目	時間
「6 原因・結果」「7 比較・対照」「8 譲歩・打ち消し」「9 事実と意見の区別」Exercise	25分
答え合わせ・解説	15分

Real Life English

リスニングとリーディングそれぞれについて、「大学入学共通テスト」前半部分の模試を解くことを通じて、日常生活でよく用いられる英語表現を身に付けさせます。年度に関わらず出題確率の高いと思われる形式の設問を揃えました。

リスニングの音声は全問、アメリカ英語とイギリス英語の2パターンを用意しています（イギリス英語は『指導用 CD』（別売）に収録。また、どちらのパターンにもアジア英語が含まれます）。

指示文はすべて英語表記としました。一般的な模試（リスニングの指示文は日本語）とは異なり、「英語を英語で教える」授業展開がしやすくなります。さらに、聞いたり読んだりした内容に基づいて答える、スピーキング・ライティングのタスクも用意しました。

<学習内容>

Real Life English 1

短い発話の聞き取り／ウェブサイトやチャットの読み取り／イラストの描写／表の説明

Real Life English 2

短い対話の聞き取り／SNS への投稿やレビューサイトの読み取り／ロールプレイ／パラグラフ・ライティング

Real Life English 3

モノローグや対話（インタビュー）の聞き取り／グラフ入りの記事の読み取り／スモールトーク／エッセイ・ライティング

Real Life English 4

モノローグや対話（インタビュー）の聞き取り／時系列で書かれた記事の読み取り／スモールトーク／コメントの投稿

Reading（物語作品）

豊かな情操と道徳心を培うための物語作品を掲載しました。登場人物の心情を推論させる推論発問（紙面掲載の Q で虫眼鏡のアイコンがついたもの）や、自分の考えを述べる評価発問（紙面掲載の Opinion）を通じて、想像力や他者への共感力を育むことができます。

指導展開の例

- ・イギリス英語の学習を目的とする場合
- ・帯活動や振り返りの時間に配慮して、1コマを40分に設定

1コマ目

指導項目	時間
「Real Life English 1」 Listening	3分
答え合わせ・解説	5分
「Column 1 イギリス英語 発音の違い」（教科書 p.152）解説・演習	7分
「Real Life English 1」 Listening イギリス英語 ver.（指導用 CD に収録）を利用してディクテーション	5分
発展学習：イギリス英語の発音①～⑦（準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』に収録）	20分

2コマ目

指導項目	時間
「Real Life English 1」 Speaking	5分
「Real Life English 1」 Reading	12分
答え合わせ・解説	5分
「Real Life English 1」 Writing	13分
Peer Feedback（書いたものを交換し、工夫していると思う部分に線を引かせる）	5分

指導展開の例

★印は準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』（別売）を使用

指導項目	時間
1コマ目 ★ Part1・2問題演習	40分
2コマ目 ★ Part3・4問題演習	40分
3コマ目 通し読み／Q・Opinion	40分

8. 評価

Heartening III では Lesson 1～10 に関して、以下の指導資料を利用して評価をすることができます。

Scene 1: Listening

「評価問題」

大問 A [知識・技能] 教科書と同じ音声を使った異なる形式の問題

大問 B [思考・判断・表現] 教科書と同じテーマで異なる内容の音声を使った問題

Scene 2: Reading

「小テスト問題」(Google フォーム対応)

単語・文構造・本文の要点確認のための問題

「評価問題 A」

大問 A [知識・技能] 教科書の英文を使った空所補充・並べ替えを中心とした問題

大問 B [思考・判断・表現] 教科書の英文を使った推論問題

大問 C [思考・判断・表現] 教科書と同じテーマで異なる内容の英文を使った問題

「評価問題 B」

教科書の英文を使った共通テスト形式の問題

「評価問題 C」

教科書の英文を使った難関私大・国公立大入試形式の問題（客観式および記述式）

「関連英文 A・B」

各課のテーマに関連した大学入試過去問題（解答・全訳付き）

◎準拠教材『Workbook for Intensive Listening and Reading』（別売）をご採用の場合には、本文中の新語、既習の重要単語、関連語彙を含む単語テストを TestMaker で作成可能です。

Scene 3: Speaking, Scene 4: Writing

「教科書本冊テキスト・ワークシート」に以下のルーブリックを収録

Speaking (10点満点)

得点	思考・判断・表現	知識・技能	
	タスク達成度 (5点)	言語の流暢さ (3点)	言語の正確さ (2点)
5	示された発表例よりも多い分量で、十分に独自性・創造性のある発表をしている。		
4			
3	示された発表例と同等の分量で、おおむね独自性・創造性のある発表をしている。	自然な言い直しや言い換えて、比較的一定のペースで発表を続けている。	
2		不自然な間や言い直しも時折みられるが、発表を続けている。	発音・文法・語彙の誤りが少なく、十分に意味が通じる。
1	上記の基準を満たさない。	上記の基準を満たさない。	上記の基準を満たさない。

Writing (10点満点)

得点	思考・判断・表現	知識・技能	
	タスク達成度 (3点)	談話展開 (2点)	言語の正確さ (5点)
5			多様な文法・語彙を使用しており、誤りが少なく十分に意味が通じる。
4			
3	Step 3のアウトラインよりも多い分量で、十分に独自性・創造性のある文章になっている。		文法・語彙の誤りがあるが、おおむね意味が通じる。
2	Step 3のアウトラインと同等の分量で、おおむね独自性・創造性のある文章になっている。	ディスコースマーカが適切に用いられ、文どうしのつながりや文章全体の一貫性が担保されている。	
1	上記の基準を満たさない。	上記の基準を満たさない。	上記の基準を満たさない。

※ Production のルーブリックです。
Interaction のルーブリックは一部文言が変わります。

学習指導要領の改訂に伴い、観点別学習状況の評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理されました。この3観点についての観点別学習評価を支援するツールとして、【観点別評価対応】換算用シートをご用意いたします。

定期考査の素点やレポートの評価などをご入力いただくと簡単に観点別評価(A・B・Cの3段階)と 評定(5段階) がつけられる、学習評価用 Excel シートです。教科書データ集DVD-ROMに収録しています。

【素点入力】定期考査

※赤枠内に、考査の「知識・技能」に相当する問題の満点と各生徒の素点、「思考・判断・表現」に相当する問題の満点と各生徒の素点を入力します。

※このシートにより算出された「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価は、自動的にこのシートに反映されます。

A・B・C評価のボーダー

A	80	%以上 (各観点の得点率)
B	50	%以上 (各観点の得点率)

※Bに届かない場合はCとする。

考査の「知識・技能」と
「思考・判断・表現」に相当する
問題の満点、各生徒の素点を入力
します。

学年	組	番	氏名	一学期									
				中間考査						期末考査			
				知・技		思・判・表		素点合計	知・技		思・判・表		素点合計
				満点	50	満点	50		満点	60	満点	40	
				素点	観点別	素点	観点別	素点	観点別	素点	観点別		
1	A	1	アベ	25	B	50	A	75	60	A	40	A	100
1	A	2	イトウ	25	B	25	B	50	30	B	20	B	50
1	A	3	イノウエ	20	C	18	C	38	25	C	14	C	39
1	A	4	ウエダ	40	A	20	C	60	50	A	18	C	68
1	A	5	カトウ	20	C	40	A	60	18	C	40	A	58

評価総括

評定 1~5のボーダー (達成度)

5=	90	%以上	4=	75	%以上	3=	50	%以上	2=	20	%以上
----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----

※2に届かない場合は1とする。

学年	組	番	氏名	一学期								二学期							
				自動計算				最終				自動計算				最終			
				知・技	思・判・表	主	評定	知・技	思・判・表	主	評定	知・技	思・判・表	主	評定	知・技	思・判・表	主	評定
				3観点の重み付け ※赤枠の中に、各観点の重みの比を入力して								3観点の重み付け ※赤枠の中に、各観点の重みの比を入力して							
				1	1	1						1	1	1					
1	A	1	アベ	A	A	A	5	A	A	A	5	A	A	A	5	A	A	A	5
1	A	2	イトウ	B	B	B	3	B	B	B	3	B	B	B	3	B	B	B	3
1	A	3	イノウエ	C	C	C	1	C	C	C	1	C	C	C	1	C	C	C	1
1	A	4	ウエダ	B	C	B	2	B	C	B	2	B	C	B	2	A	C	B	3

名簿の作成 ⇒ 素点の入力 ⇒ 評価総括の出力
の流れで各学期ごとの評定が自動表示されます。
特定の観点到に重み付けを行うことも簡単にできます。

A	A	4	C	B	A	3
B	B	3	B	B	B	3
B	B	3	B	B	B	3
B	B	3	A	B	A	4
B	B	3	A	B	B	3
A	B	3	A	B	B	3
A	B	3	B	C	B	2